

公開シンポジウム 『東アジア共同体の構築を目指して』

財団法人日本国際問題研究所主催
外務省後援

2010年3月17日開催

於：グランドプリンスホテル赤坂「五色」2階 五色の間

(1) 背景と問題提起

1997年のアジア金融危機以降、地域諸国間で東アジアの地域協力の必要性があらためて喫緊の課題として共通認識され、ASEAN+3や東アジア首脳会議(EAS)、またAPECやASEAN地域フォーラムといった既存の地域協力の枠組みが発展するなかで、近年、地域協力の最終形態とも呼べる「東アジア共同体」構想が活発に議論されている。地域における共同体構想への関心度は、鳩山総理による一連の提案によって一段と高まっており、また2009年11月のAPEC首脳会議における鳩山総理のアジア政策講演で強調されたように、共同体の構築は日本のアジア外交の主要目標にも位置づけられている。

東アジア共同体構想は、2000年代初頭から政府レベルで議論されるようになり、その後2004年11月の第8回ASEAN+3首脳会議において共同体構築が地域共通の長期的目標として合意された。さらに2005年12月には、共同体形成において「重要な役割」を果たすものとしてEASが設立された。また、同月に開催された第9回ASEAN+3首脳会議では、東アジア共同体を長期的目標として実現していく決意が再度表明され、ASEAN+3は共同体実現の「主要な手段」として位置づけられた。

このように共同体形成の機運は着実に高まっているが、共同体の内容については地域諸国間でコンセンサスが確立されておらず、メンバーシップを巡る意見の対立も表面化している。また、共同体の構築には、地域諸国間の経済格差や政治・文化の多様性といった様々な障害がたちだかっていることも指摘されている。東アジア共同体形成に向けた日本の新たなイニシアチブが提起されたことは、共同体構想の課題と実現への方策をあらためて議論する良い契機である。

(2) 目的と意義

本シンポジウムは、東アジア共同体構想を広く一般に周知することを目的とする。また、現在提起されている共同体構想を含めた、様々な地域協力の現状と課題について共通理解を深めるとともに、最終的な共同体の実現に向けてどのような具体的方策をとることができるか、とるべきかを議論することで、今後の議論の発展を促す。本シンポジウムでは、特に以下の点を明らかにしたいと考えている。

1. 共同体構想および地域協力の現状。
2. 共同体構想実現への課題。
3. 共同体構想の実現に必要な具体的な方策。

(3) プログラム

10:00-12:45 開会の辞 野上義二 財団法人日本国際問題研究所理事長

ご挨拶 鳩山由紀夫 内閣総理大臣 (TBC)

第1部 東アジア共同体構想の現状と課題

◆ねらいー共同体構想および地域協力の現状と課題を明らかにする。

[敬称略]

司 会： 道傳愛子 (NHK解説委員)

パネリスト： 白石隆 (内閣府総合科学技術会議議員／アジア経済研究所所長)

T・J・ペンペル (カリフォルニア大学バークレー校教授)

王逸舟 (北京大学国際関係学院副院長)

孔魯明 (世宗財団理事長／元駐日大使／元韓国外交部長官)

N・ハッサン・ウィラユダ
(大統領諮問会議委員／前インドネシア外務大臣)

14:15-16:45 第2部 東アジア共同体の実現に向けての方策

◆ねらいー共同体構想の実現に必要な方策について具体的且つ現実的な案を提示する。

[敬称略]

司 会： 野上義二 (財団法人日本国際問題研究所理事長)

パネリスト： 船橋洋一 (朝日新聞社主筆)

エズラ・F・ボーゲル (ハーバード大学名誉教授)

トミー・コー (シンガポール無任所大使／シンガポール国立大学教授)

ラジーブ・シクリ (元インド外務省次官)

ピーター・ドライスデール (オーストラリア国立大学名誉教授)

16:45-17:00 総括及び閉会の挨拶 野上義二 財団法人日本国際問題研究所理事長

(4) 問い合わせ先

財団法人日本国際問題研究所 〒100-6011 東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビル 11階
TEL: 03-3503-7801 FAX: 03-3503-7186 URL: <http://jia.or.jp>
【担当者】 研究員 湯澤武 / 研究助手 高澤洋志